

# ヤングケアラーの認知度調査に関する、県政モニター調査結果

## (調査目的)

ヤングケアラーの認知度について県民意見を聴取し、今後の施策の参考とする。

## (調査概要)

①調査対象：県政モニター（110名）

②調査方法：県政モニターあてアンケート

郵送・・・郵送にて送付、返送

メール・・・メールによるアンケート用紙送付、返信

簡易申請・・・簡易申請システムによる入力、データ出力

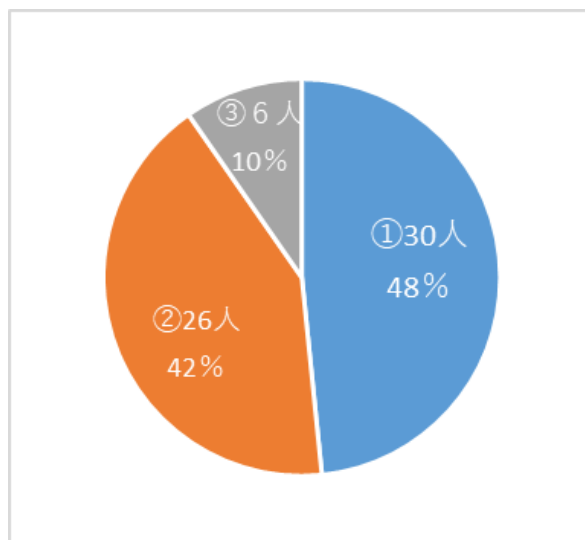
③調査時期：令和4年9月

④回答者数：62名（回答率56%）

問1

「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか？  
 (以下の選択肢からひとつお選びください。)

- ① 聞いたことがあります、内容も知っている
- ② 聞いたことはあるが、よく知らない
- ③ 聞いたことはない



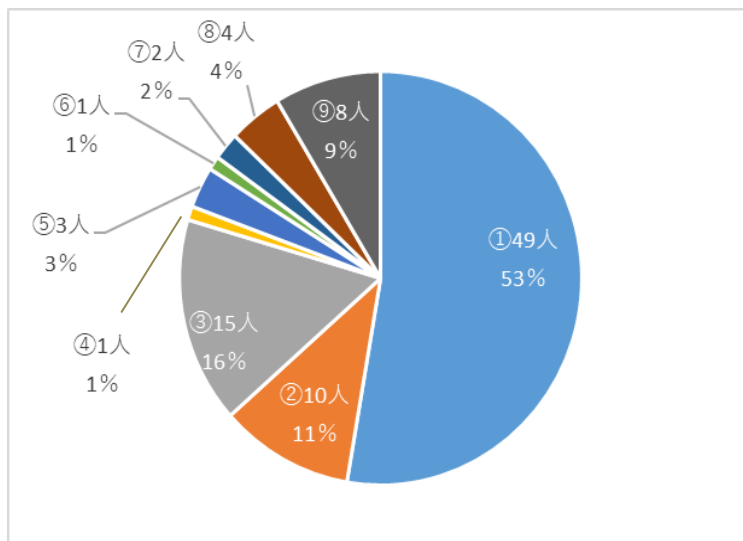
※ 未回答 0件

	①	②	③	計
回答数 (人)	30	26	6	62
割合 (%)	48	42	10	100

問2

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか？  
 (複数選択可)

- ① テレビや新聞・ラジオ
- ② 雑誌や本
- ③ SNS やインターネット
- ④ メール
- ⑤ ポスターやチラシ
- ⑥ 地域のお祭りや行事など
- ⑦ 学校
- ⑧ 友だち・知人から聞いた
- ⑨ その他



※ 複数回答可

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	計
回答数	49	10	15	1	3	1	2	4	8	93
割合 (%)	53	11	16	1	3	1	2	4	9	100

⑨その他 の内訳

- ・孫からスマホで調べてもらいました
- ・今回のアンケート
- ・過去に自分が体験している
- ・子供への負担がかかることが多いという離婚家庭の言葉です
- ・貧困家庭やネグレクトの実態ドキュメントにて
- ・知りませんでした
- ・関連研修や講習の実施が必要でしょう
- ・同僚との会話

### 問3

ヤングケアラーの周知のため、どんな広報が必要と思いますか？

例：TVでCMを放映する、ちらしを学校へ配布する等、ご自由に記載ください。

- TVのニュースなどでもっと報道する
- 親と子供に周知させるために授業参観
- 市等から毎月発行されている市報に掲載するとか市民が必ず読むものに載せたらどうでしょうか
- マスコミの活用（CM、新聞広告、チラシなど）
- お手伝いとヤングケアラーの違いをわかりやすくする、動画が良いと思う。役所等のロビーなどに流すのも一つの方法と思います。
- テレビのローカルニュース等に取り上げてもらうことが一番だと思います。
- テレビ、ドラマ、YouTube 広告
- チラシの配布
- 地区や民生委員やTV・インターネットを使って知らせる事が大事だと思います
- 市町村の広報、新聞紙上でのヤングケアラーの実態などを掲載する。
- TV、ラジオ等でCMを流す。またネットでの動画配信が良いと思います。
- 実際に小・中学校にて講演する。
- ちらしを学校へ配布する。
- 今、TVで放映されていて知った。TVでCMや、ちらしを学校に配布すると良いと思うし、助けを求めやすい環境をつくっていかないといけないと思う。
- PTA、子ども食堂
- 学校で先生が、異変に気づき対処できる。システム（声かけ等）を教育委員会が中心となり実践する。
- 地上波よりもYouTube や SNS 等に広告流した方が全世代への拡散になると思う
- ゲームセンターなどに子供が立ち寄りそうなところにポスターを貼る
- テレビドラマの作成。または県企画の広報番組での事例紹介
- 学校の道徳の時間で紹介してもらう。
- 子ども自分自身がケアラーであることを認識できるように、学校でチラシを配布したり、家族構成から可能性が高い生徒に直接話すことなどが必要
- TVCM、チラシにしても、小さなバナー広告などでも目にとまるよう、ある一定期間、毎日、毎回広報すること
- 家族の面倒を見るのは家族だという古来の考え方を変える活動が必要です。マスコミが多くの取材を経て得た知識を公開して、助けになる施設や相談場所を沢山確保していくことだと思います。
- 保育園、学校経由でチラシを配布。児童手当の案内に同封。

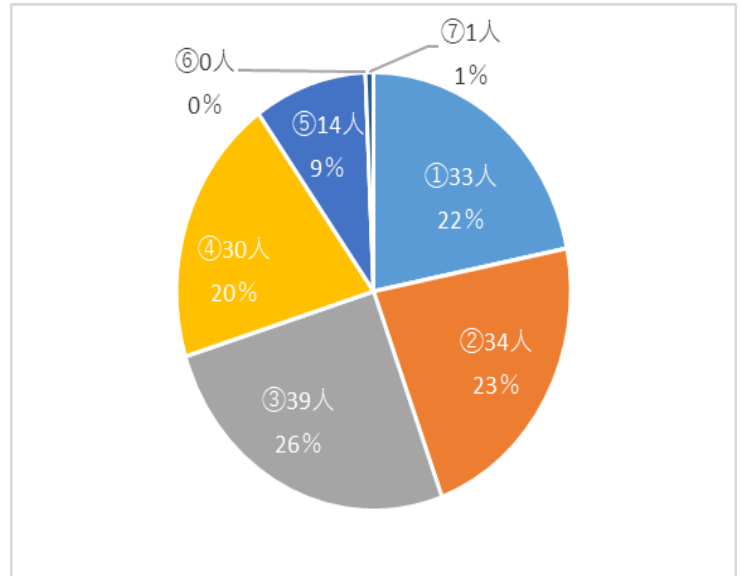
#### 問4

ヤングケアラーにはどのような支援が必要と思いますか。

ヤングケアラーとは、一般に大人が行うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていると子どもとされています。県の調査では、18歳未満のヤングケアラーは、1,000人程度いると推計されています。

(複数選択可能です)

- ① ヤングケアラー同士が互いの悩みや不安について相談ができる場所づくり
- ② NPOや民間団体、行政による相談窓口の設置
- ③ 子どもに代わって家事や介護を行うサービスの提供・人材派遣
- ④ 家族への経済的なサポート
- ⑤ その他
- ⑥ 特にない
- ⑦ 分からない



※ 未回答 0件

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	計
回答数 (人)	33	34	39	30	14	0	1	151
割合 (%)	22	23	26	20	9	0	1	100

#### ⑤ その他の内訳

- ・実数がわかるのであれば本人達に直接必要な支援を聞くべき
- ・ヤングケアラーの先生が不安や悩みを学校の教師に相談できる雰囲気づくりも重要と思います。
- ・家族への経済サポートは親がギャンブルとかに金を使ったりするので、その子が金を払わなくてもいいような提供などいかがでしょうか。
- ・そんな子供たちには色々な背景があると思うので、個々に合った援助が必要かと。それには、個々の把握が重要視されるので、訪問調査員の増員
- ・本人が自分がケアラーであることを認識できるようにする。またケアが必要な家族が、ケアを子どもにさせないように医療関係者や専門家、行政が説明したうえで可能なサポートを提供する
- ・正直に苦悩が喋れる環境づくりが必要です。
- ・相談できる環境づくりはとても重要ですが、電話にて24時間対応できることもほしいです。
- ・時間と経済的支援はもちろんですが、将来の不安も無いよう支援が必要だと思います。
- ・自分自身をヤングケアラーだと認識し、また認識した場合の相談機関へアクセスする方法を教える義務教育での授業。
- ・社会福祉士の紹介。プロの社会福祉士が必要なサービス・支援の利用を適切に判断し仲介する。
- ・ヤングケアラー本人への情報提供

#### 問5

この調査を通して、あなたが感じたことを自由に書いてください。

- ・色々な事が起きている事の実態を感じる。助けてあげようと思っても自分も介護が必要となる現実への不安を感じる。
- ・子どもの負担軽減を第一に、さまざまな支援策を個々のケースに応じて実践できればと思います。
- ・線引きが難しいかと思う。手伝いと親が言え、手伝い！子供が苦痛で言葉の言い方聞き方次

第では、ヤングケアラーと受け取れる！！近所の声、行政による判断に委ねる事は必要だと思う。経済的サポートも一般人には難しい判断、支援だと思います。

- ヤングケアラーに支援することの大切さと、難しさも感じています。未来ある子供達を育成・支援する大きな輪があれば良いとも思います。
- ヤングケアラーはTVで2、3日前はじめて知りました。もっともっと沢山の人がヤングケアラーの事を知っていただくのが先決です。ポスターやチラシ、TV、HP、ラジオでどんどん皆さんに知っていただくようにしてほしい
- ヤングケアラーと言われる子供達にも家庭によって内容は異なると思います。しかし若い子供たちが家族の為に社会とのつながりがうすくなったり、将来の夢がかなわなかったりするのは、とても切ないです。こういったアンケートを通して、子供たちの負担が軽減され官民あげてヤングケアラーに寄り添える社会になればと思います。
- 教育を受けられる子供たちに受けられない事は大変悲しいです。子供達にも一生一度しかない人生を有意義な生活をおくってほしいと思います。県も対策はしていると思いますが地区や周りの人の協力も必要と思います。
- 特に介護（親）などで子どもが懸命に世話をしている姿が放映されたことがあります。児童委員や児童民生委員が中心になって地域の実態を把握して家族への思いやり、経済的支援を行うことが必要と思われます。又市の担当課にも協力を得て地域全体で取り組んでほしい。
- 学校の先生もヤングケアラーの生徒がいれば気付いてあげてほしいです。ヤングケアラーの生徒は他の同級生よりも授業が終ればすぐ下校しています。そのため友だちを作ることができず孤立している子供が多いと聞いています。先生方は放課後を注目して生徒をみてほしいと思います。
- 一番大事な成長期に勉学、人格形成、人として心がまえが出来る環境をフォローアップしてやりたい。
- 自分が知らないだけで近くにもいると思う。もっと社会がヤングケアラーに対してもっと目を向けていくべきだと思う。
- ヤングケアラーは1,000人程度いると推計されているとのこと。ヤングケアラーの内容を把握し、行政による相談窓口や地域でお世話したりする相談の窓口を作り、できる限りの支援をしてほしいです。
- 年をとっても知らない事が沢山ある事におどろきです。老々介護からヤングケアラーにお世話される人にならない様に気をつけたいと思いました。
- 最近CMで見るようになりヤングケアラーのことを知った。誰にも助けを求めることが出来ず苦しんでいる子ども達に対して、大人が少しでもおかしいと思ったら手をさしのべなければと思う。その為には人と人のつながりが大事だし、助けを求める場所がどこにあるか子ども達が相談しやすい環境づくりが大事だと思う。子ども達が苦勞することなく幸せに毎日過ごして欲しい。
- ヤングケアラーを知りことばが使われることに対して、私（S24生まれ）が子供の頃とは家族のあり方がちがってきているように思われる。そんな子供達は学業に支障をきたす他、まだどういう支障がおこりえるのか。今いち具体的に考えがおよびません。ヤングケアラーと判断する基準はどうか。そう認識する子供はどの程度いるのか（推計はされているようですが）。この件に対して認識不足で申し分けありません。今後参加できる講演がありましたら出席したいと思います。
- 県が興味をもっているのは一歩前進。
- ヤングケアラーと自覚している子どもには何らかの支援が進められると思いますが、ヤングケアラーに該当しているかわからないままケアをしている子どもを救うことが必要だと思います。
- 孤立した社会環境、核家族化などによりこれからもヤングケアラーが増加することが考えられると思います。親世代への相談支援が先かと思います。子供達から声をあげることは難しいかと思いますが、どうしてよいか解らず現状からの脱却をあきらめてしまうかもしれません。
- いつの時代もこういう状況下におかれた人々はいるものです。行政からの力強いサポート、側面

からの応援が必要と思われます。県政への努力を期待します。

- 我々が支援を考える前に、ヤングケアラーとなっている子供達が、一番やりたいこと、欲しいこと、相談したいこと等々の把握が先ではないでしょうか。県の担当課は把握できているのであれば、それらの悩み等を具体的に提示して、対応策を問うことが早い解決や支援に繋がると考えます。約1,000人の子供達のそれぞれの環境は異なると思いますが、楽しくしあわせな生活が一日でも早く訪れることを願っています。
- まずは広く知られていないことが一番の問題。ヤングケアラー自身がどこに相談していいのかもわからないのでは？まずは相談窓口を広げ、サポート体制を確立しなければ、ヤングケアラー自身のその後の人生にも関わる大切なことだと思う。
- 恥ずかしいのではなく、大変な苦勞をしていますから助けてほしいという環境や場所が 人の心を救うと思いました。
- ヤングケアラーに支援することの大切さと、難しさも感じています。未来ある子供達を育成・支援する大きな輪があれば良いとも思います。
- 私のご近所の方ですが身近にも該当する人がいます。ご苦勞が多いようで何からかの支援などの体制が必要でしょう
- 学校生活や友人との余暇なども犠牲にならないように、ぜひ支援をお願いします。
- ヤングケアラーの周知と支援の必要性を、一般の無関係にある人にも認知共感できる機会の一歩目として良い取り組みだと感じます。
- 子ども達には勉学に専念できる社会環境であって欲しい。
- ヤングケアラーの当人（若い世代）は、あまり当人同士で情報交換をしたりすることはないかと思います。私の知人にもいますが、小さい時から継続しているので、これが当然のことだと思います。周囲からも問題視されていなかったり、親としても面倒を見てもらうのが当たり前、という考えの方もいます。（半ば強制的に）介護者のみならず、被介護者にもその意識を持っていただくことが重要と考えます。
- 言葉を知っているが内容を知る人は少ないと思うので、ヤングケアラーがどういうものか、実際にどんな支援が必要なのかを多くの人に知ってもらいたい